

菊池晚香

（晩香）

漢學者、漢詩人。安政六年十一月二十四日（紀伊國和

原生乳、大正十一年十月九日歿（一八六一—一九三三）。講武貞、字仲幹、通

稱三九郎。別號玉溪。父は菊池三溪。幼びして諸子百家の文を暗誦し

たといふ。東京専門學校に入り、英語、政治科を修めると、漢學の造

詣深く、詩文の才も大隈重信、高田半峰に知られ、同校教授となつて

漢籍詩文を擔當。

漢詩集『瀛史行詠』

（明治二十九年九月四日早稻田大學出版部）の他、

『列子和訳』

（林南軒共譯、明治四十三年一月二十七日龜井商店書籍

部）、『楚辭和訳』

（林南軒共譯、明治四十四年四月四日龜井商店書籍

部）等著書多數。